

令和8年度(2026年度)

カリキュラム編成書

映像放送科

東北電子専門学校

映像放送科

育成人材像

- ① 技術進歩の早い映像・放送コンテンツ業界において、クリエイティブセンスとテクニカルスキルを身に付け、カメラマン、エディター、ミキサーなど、映像技術者として番組制作に携わり、優良な番組を仕上げることができる。
- ② 放送、Web動画、映画など、多様なメディアを対象としたディレクションスキルを身に付け、映像ディレクターとして時代に即した映像コンテンツを制作することができる。
- ③ コンピュータによる映像表現に関する知識とノンリニア編集ソフトの操作技能を身に付け、ディレクターの意図に沿った映像編集ができる。

身に付ける能力

- ① 映像、音響、照明、CGの授業を通して、イメージを具現化する基礎技術を学び、コンテンツ制作を行うことができる。
- ② カメラ、照明機器、音響機器、送信設備等の放送機器に関する知識と操作技術を身に付け、放送業界で円滑に業務を遂行できる。
- ③ 音響制作科との合同授業(ステージ制作)により、制作・技術スタッフや出演者との関りを学び、チームワークの重要性を理解し、プロジェクトを円滑に進めるためのディレクションスキルを身に付け、映像コンテンツの制作ができるようになる。
- ④ ディレクションスキルとテクニカルスキルをインターンシップ(現場実習・課外実習)で実践し、実務に応用できる。
- ⑤ ニュース報道など中継現場から放送する場合必要となる、第1級陸上特殊無線技士の資格取得に必要な、電気に関する知識、電波の基礎知識、電波法、無線設備、無線従事者の仕事等の知識を身に付ける。

教育課程編成方針

- ① 豊かな教養と社会常識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1年次は、映像放送分野における基礎的知識、映像編集・画像編集・CG制作アプリケーションの基本的操作能力、スイッチャーやカメラなどのスタジオ機材の操作能力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ③ 2年次は、1年次に身に付けたアプリケーション、機材の操作法の応用力を高め、映像技術分野で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ④ 2年次は、番組制作や公開にかかわるコンプライアンス、台本構成と文章表現など、映像制作分野で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ⑤ 2年次通年で企業と連携した実習科目を配置する。

授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニングの他、業界企業研究を行う。
- ② 映像放送分野における知識習得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習はグループワーク形式で行う。
- ③ 映像編集・画像編集アプリケーション、スタジオ機材の操作技能を身に付けるための専門科目は実習形式で行う。各科目年間3作品程度の課題を作成し、映像放送業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付ける。
- ④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した授業は、スタジオ番組制作実習としてトーク番組、ニュース番組、情報番組などを制作し、スタジオにおける番組制作に必要な技術や知識を身に付ける。

目標資格

- ・映像音響処理技術者
- ・第1級陸上特殊無線技士(2年生のみ)
- ・マルチメディア検定 ベーシック

目指す職種

- ・ディレクター ・カメラマン ・TV音声スタッフ ・ライティングディレクター ・テクニカルディレクター
- ・テレビ中継スタッフ ・映像編集者 ・ビデオエンジニア ・映像クリエイター

企業連携実習

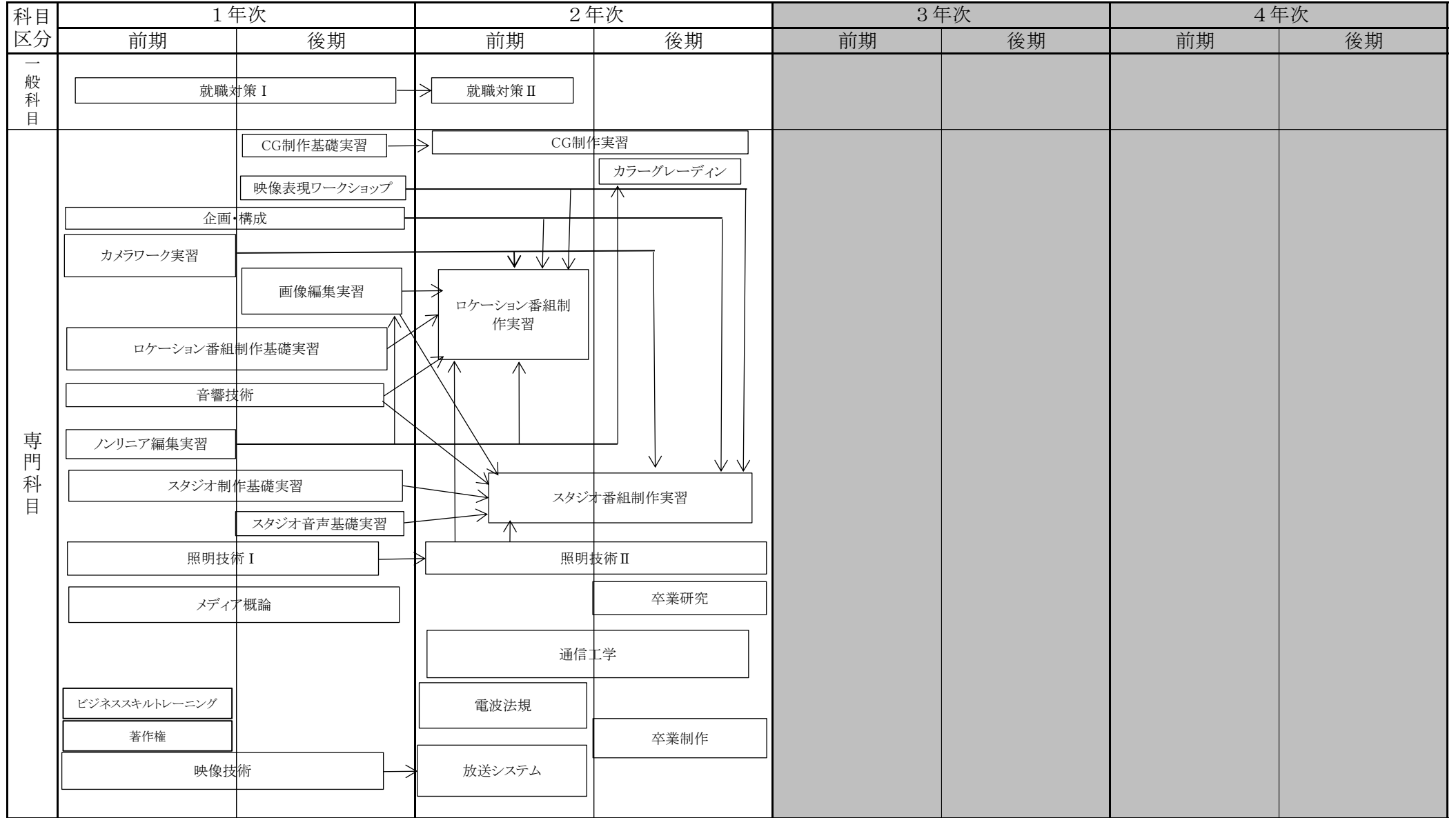
(株)仙台放送エンタープライズ

業界や企業との提携／外部イベント／コンテスト等

- ・放送局(ケーブルテレビも含む)
- ・東北映像製作社協会とのインターンシップ
- ・日本映画テレビ協会東北支部によるセミナー研修

科目関連図

映像放送科



映像放送科

1年

科目名	就職対策 I A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時限/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	木須 紀子			実務経験					
目的/概要	<p>目的: 就職活動において、各種審査・試験(書類審査、筆記試験、面接試験等)に対応できる力を身につけることにより、希望する企業への内定を獲得する。</p> <p>概要: テキストと動画視聴、ワークブックにより、書類の作成や面接対策など、就職活動で必要とされる対応力を身につける。またWebコンテンツを使用し、一般常識や適性試験対策を中心に就職活動における筆記試験対策を行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動に必要な書類、特に履歴書をしっかりと完成させることができる。 ・就職活動を前提に、社会人としての常識やモラル、立ち居振る舞いを身につける。 ・面接試験においては物おしせず、自分の考えを相手に伝えることができる。 ・一般常識やSPIを繰り返すことにより、スキルの向上を図る。 								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト: ビジュアルで学ぶシリーズ これだけは知っておきたい! 面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)(ワークブック付属) ・Webコンテンツ: ラインズドリルベーシック、ラインズSPI(ラインズ社) 								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動は卒業後の進路を決める重要な活動であり、本授業はその礎を築くものである。就職活動を主体的に捉え、積極的に取り組むこと。 ・ラインズは授業以外の時間も使用し、積極的に進めること。 								
成績評価の方法									

授業計画・授業内容

	テキスト・ワークブック	ラインズ
第1週	科目オリエンテーション	ラインズベーシック 数学 1.数の体系1
第2週	I. 社会人になるとは①	ラインズベーシック 数学 2.数の体系2
第3週	I. 社会人になるとは②	ラインズベーシック 数学 3.単位/組み合わせ・確率
第4週	II. 基本動作	ラインズベーシック 数学 4.量の関係・文字式・関数
第5週	III. 言葉遣い①	ラインズベーシック 数学 5.累乗・2次方程式
第6週	III. 言葉遣い②	ラインズベーシック 数学 6.図形
第7週	IV. 電話対応①	ラインズベーシック 数学 総まとめ
第8週	IV. 電話対応②/V. インターネット・電子メール利用のま	中間試験
第9週	I. 面接の目的①	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語(基礎)①
第10週	I. 面接の目的②	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語(基礎)②
第11週	II. 自己分析①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎)①
第12週	II. 自己分析②	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎)②
第13週	就職支援プログラム①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎)③
第14週	就職支援プログラム②	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎) 総まとめ
第15週	前期まとめ/期末試験	期末試験
	<p>※授業時間に、付属のワークブックの記入や動画の視聴も一部含む。</p> <p>※就職支援プログラムの実施時期は前後する場合がある。</p>	

科目名	就職対策ⅠB				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時限／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	木須 紀子			実務経験					
目的／概要	<p>目的：就職活動において、各種審査・試験(書類審査、筆記試験、面接試験等)に対応できる力を身につけることにより、希望する企業への内定を獲得する。</p> <p>概要：テキストと動画視聴、ワークブックにより、書類の作成や面接対策など、就職活動で必要とされる対応力を身につける。またWebコンテンツを使用し、一般常識や適性試験対策を中心に就職活動における筆記試験対策を行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動に必要な書類、特に履歴書をしっかりと完成させることができる。 ・就職活動を前提に、社会人としての常識やモラル、立ち居振る舞いを身につける。 ・面接試験においては物おじせず、自分の考えを相手に伝えることができる。 ・一般常識やSPIを繰り返すことにより、スキルの向上を図る。 								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：ビジュアルで学ぶシリーズ これだけは知っておきたい！ 面接対策&ビジネスマナー(ウイネット) (ワークブック付属) ・Webコンテンツ：ラインズドリルベーシック、ラインズSPI(ラインズ社) 								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動は卒業後の進路を決める重要な活動であり、本授業はその礎を築くものである。就職活動を主体的に捉え、積極的に取り組むこと。 ・ラインズは授業以外の時間も使用し、積極的に進めること。 								
成績評価の方法									

授業計画・授業内容

	テキスト・ワークブック	ラインズ
第1週	就職支援プログラム①	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語①
第2週	就職支援プログラム②	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語②
第3週	Ⅲ. 自己PR作成①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語①
第4週	Ⅲ. 自己PR作成②	ラインズSPI SPI演習問題 非言語②
第5週	Ⅳ. 志望動機作成①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語③
第6週	Ⅳ. 志望動機作成②	中間試験
第7週	V. エントリーシート・履歴書作成①	ラインズSPI SPI解答のテクニック 言語
第8週	V. エントリーシート・履歴書作成②	ラインズSPI SPI演習問題 言語①
第9週	Ⅵ. 企業訪問①	ラインズSPI SPI演習問題 言語②
第10週	Ⅵ. 企業訪問②	ラインズSPI SPI演習問題 言語③
第11週	Ⅶ. 面接試験①	ラインズSPI SPIマークシート
第12週	Ⅶ. 面接試験②	ラインズSPI SPIWebテストイング
第13週	Ⅶ. 面接試験③	ラインズSPI SPIテストセンター
第14週	模擬面接	ラインズSPI 総まとめ
第15週	前期まとめ/期末試験	期末試験
	※授業時間に、付属のワークブックの記入や動画の視聴も一部含む。 ※就職支援プログラムの実施時期は前後する場合がある。	

科目名	メディア概論A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	篠 拓勇希			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 マルチメディアは、文字・音声・画像・動画などの情報をデジタル技術で統合することでコミュニケーションを可能にするものであり、私たちの身近にも浸透している。マルチメディア技術の根幹をなすデジタル端末(コンピュータなど)やその周辺機器、インターネットなど、かつデジタルコンテンツ、知的財産権、セキュリティ技術、マルチメディアの応用に関する幅広い知識と技能を習得することを目標とする。</p> <p>【概要】 画像、映像、音響などコンピュータで扱える全ての情報であるマルチメディアを用いて、何ができるのか、またどのような機器が必要になるのかなど基本となる知識を学ぶ。</p>								
到達目標	<p>マルチメディアの扱い方とインターネットを用いたコミュニケーション技術に関する基礎的な事柄を説明できるようになる。</p> <p>また、その知識を多様な生活の場面で発揮できるようにし、マルチメディア検定ベーシックの合格を目指す。</p>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチメディア検定 ベーシック(7月、11月 5,600円) 								
前提知識	<p>高等学校を卒業した程度の知識</p>								
使用教材	<p>入門マルチメディア(CG-ARTS協会)</p>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は必要に応じ、板書したり、プリントなどを利用するので、ノートを用意すること。 ・大切なのはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をすること。 ・授業中におけるスマートフォンの使用は厳禁とする 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査80%・課題小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	マルチメディアの特徴:アナログとデジタル
第3週	マルチメディアを構成する要素
第4週	ヒューマンインタフェース視覚と聴覚
第5週	デジタル端末:マルチメディアを扱う端末
第6週	コンピュータの構成・OS・ポータブル記録メディア
第7週	コンテンツ制作のためのメディア処理:ファイルフォーマット・文書の作成
第8週	・画像処理・映像や音声の編集と再生①
第9週	・画像処理・映像や音声の編集と再生②
第10週	・3次元CG
第11週	・Webページの作成
第12週	インターネットと通信:インターネットの仕組みと役割
第13週	インターネット接続・ブロードバンドネットワーク・モバイル通信
第14週	インターネットで提供されるサービス:WWW・コミュニケーションサービスやツール・インターネット上で提供されるサ
第15週	前期期末試験

科目名	メディア概論B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	篠 拓勇希			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 マルチメディアは、文字・音声・画像・動画などの情報をデジタル技術で統合することでコミュニケーションを可能にするものであり、私たちの身近にも浸透している。マルチメディア技術の根幹をなすデジタル端末(コンピュータなど)やその周辺機器、インターネットなど、かつデジタルコンテンツ、知的財産権、セキュリティ技術、マルチメディアの応用に関する幅広い知識と技能を習得することを目標とする。</p> <p>【概要】 画像、映像、音響などコンピュータで扱える全ての情報であるマルチメディアを用いて、何ができるのか、またどのような機器が必要になるのかなど基本となる知識を学ぶ。</p>								
到達目標	<p>マルチメディアの扱い方とインターネットを用いたコミュニケーション技術に関する基礎的な事柄を説明できるようになる。</p> <p>また、その知識を多様な生活の場面で発揮できるようにし、マルチメディア検定ベーシックの合格を目指す。</p>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチメディア検定 ベーシック(7月、11月 5,600円) 								
前提知識	前期「メディア概論A」の内容を理解していること								
使用教材	入門マルチメディア(CG-ARTS協会)								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は必要に応じ、板書したり、プリントなどを利用するので、ノートを用意すること。 ・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をすること。 ・授業中におけるスマートフォンの使用は厳禁とする 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査80%・課題小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	デジタルとネットワークで進化するライフスタイル:情報家電・テレビと映像コンテンツ
第2週	・サービスロボット・ゲーム機の変化
第3週	社会に広がるマルチメディア:ICカード・街角のマルチメディア
第4週	・交通・医療と福祉
第5週	・学術と文化・行政と政治
第6週	セキュリティと情報リテラシ:セキュリティ・個人情報の保護
第7週	・知的財産権
第8週	小テスト
第9週	映像音響処理技術者資格認定試験対策①
第10週	映像音響処理技術者資格認定試験対策②
第11週	映像音響処理技術者資格認定試験対策③
第12週	映像音響処理技術者資格認定試験対策④
第13週	映像音響処理技術者資格認定試験対策⑤
第14週	映像音響処理技術者資格認定試験対策⑥
第15週	後期期末試験

科目名	ビジネススキルトレーニング				企業連携		授業方法	実習・講義	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間／週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	篠 拓勇希			実務経験					
目的／概要	<p>【目的】 個人情報の取り扱い、SNS利用時の注意点などを学習することでネットトラブルから身を守る方法を修得するとともに他者の権利を侵害し法的責任を負う危険性を回避できるよう著作権についても学習する。また、情報関連科目を学習するために必要なWindowsの基本操作や、Word、PowerPoint等のオフィスソフトの基本操作を修得する。</p> <p>【概要】 ビジネス社会で用いられるアプリケーションソフトウェアの操作や、ネット社会におけるモラルやセキュリティについて学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生用グループウェアサービスを知り、それを使ってEメールを利用できる。 ・個人情報の取り扱い、著作権、SNS利用時の危険性について理解し、様々なネットトラブルから身を守ることができる。 ・著作物の文化的意義を理解し、著作権を尊重する態度を理解し、説明できる。 ・Wordによる文書作成や表作成、図形や画像を利用した文書を作成できる。 ・PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成、アニメーション効果や音響効果を盛り込んだスライド作成ができる。 ・AIに関する基本的な考え方や知識、活用事例などについて理解する 								
目標資格	特になし								
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の情報科目履修程度の知識 ・マウスの使用、簡単な文字入力 								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・Infoss e-Learning: 情報倫理 ・30時間でマスター Office2021テキスト(実教出版) ・Udemy「はじめてのAI」 								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・e-Learningは視聴の際は大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫を行う。 ・テキストを持参すること。 ・授業中におけるスマートフォンの使用は厳禁とする 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・e-Learningの終了テスト ・テキスト課題の提出物 ・授業への取り組む姿勢などで総合的に評価する 								

授業計画・授業内容

第1週	オリエンテーション
第2週	パソコンリテラシーWindowsの基本操作
第3週	学生用グループウェアサービス、Eメールの利用
第4週	情報リテラシー 情報モラル教育①
第5週	情報リテラシー 情報モラル教育②
第6週	AIリテラシに関する動画の視聴及び関連用語の理解①
第7週	AIリテラシに関する動画の視聴及び関連用語の理解②
第8週	Office2021テキスト:Word①
第9週	Office2021テキスト:Word②
第10週	Office2021テキスト:Word③
第11週	Office2021テキスト:Excel①
第12週	Office2021テキスト:Excel②
第13週	Office2021テキスト:Excel③
第14週	Office2021テキスト:PowerPoint①
第15週	Office2021テキスト:PowerPoint②

科目名	映像技術A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	八巻 吉市			実務経験	民間放送局で放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に勤務				
目的/概要	<p>【目的】 放送や番組制作のための設備や使用機器を理解するために必要な信号の成り立ち、信号の意味や役割などを理解し、それぞれの機器の基本動作やポストプロダクション業務の内容を学び、映像コンテンツの制作技術スタッフとしての知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>【概要】 ポストプロダクション業務、地上デジタル放送、番組制作技術(制作の流れ、制作スタッフの役割、スイッチング)を学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地上デジタル放送や各種メディア(ビデオオンデマンドサービス、デジタルサイネージやライブ映像)など、映像コンテンツの制作技術の知識を身に付け、具体的に技術内容を説明できること。最終的には映像音響処理技術者資格認定試験に合格すること。 ・番組制作の流れ、番組制作スタッフの役割、スイッチングの基礎を理解し、「スタジオ番組制作実習」で、質の高い番組制作ができること。 								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	電気・電子に関する物理の知識、興味があれば望ましい								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者作成のスライド・資料 ・ポストプロダクション技術マニュアル・映像音響処理技術者資格認定試験問題集(2026年度版:日本ポストプロダクション協会) ・テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) 								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの要点をまとめたスライドで、授業を進めます。必ず専用ノートを用意して必ず記録すること。また、授業内容をより理解するためには、テキストを授業前または授業後に必ず熟読すること。 ・授業の最後に「振り返り」のため、映像音響処理技術者資格認定試験問題集の中から「宿題」を出すこともあります。次の授業時間まで必ず演習を行い、授業に臨むこと。 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験80%・授業への取り組み姿勢(聴講)20%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	デジタルVTR(信号処理部、チャンネルコーディング、誤り訂正、シャプリング)①
第3週	デジタルVTR(信号処理部、チャンネルコーディング、誤り訂正、シャプリング)②
第4週	デジタルVTR(信号処理部、チャンネルコーディング、誤り訂正、シャプリング)③
第5週	素材のやり取り、サーバーでの運用、デジタル映像のガンマ特性①
第6週	素材のやり取り、サーバーでの運用、デジタル映像のガンマ特性②
第7週	Raw収録とLog収録、デジタル現像、Raw収録の特徴と処理、Log収録の特徴と処理①
第8週	Raw収録とLog収録、デジタル現像、Raw収録の特徴と処理、Log収録の特徴と処理②
第9週	HDRとSDR、HLG方式とPQ方式①
第10週	HDRとSDR、HLG方式とPQ方式②
第11週	デジタル映像の補正と調整(アパーチャ補正、ディテール補正、シャープネス補正)
第12週	オフライン編集とオンライン編、リニア編集とノンリニア編集、編集器の機能、
第13週	アッセンブルモードとインサートモード、編集の基本
第14週	編集作業における注意点、本編集を行う際の留意点
第15週	前期期末試験

科目名	映像技術B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	八巻 吉市			実務経験	民間放送局で放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に勤務				
目的/概要	<p>【目的】 放送や番組制作のための設備や使用機器を理解するために必要な信号の成り立ち、信号の意味や役割などを理解し、それぞれの機器の基本動作やポストプロダクション業務の内容を学び、映像コンテンツの制作技術スタッフとしての知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>【概要】 ポストプロダクション業務、地上デジタル放送、番組制作技術(制作の流れ、制作スタッフの役割、スイッチング)を学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地上デジタル放送や各種メディア(ビデオオンデマンドサービス、デジタルサイネージやライブ映像)など、映像コンテンツの制作技術の知識を身に付け、具体的に技術内容を説明できること。最終的には映像音響処理技術者資格認定試験に合格すること。 ・番組制作の流れ、番組制作スタッフの役割、スイッチングの基礎を理解し、「スタジオ番組制作実習」で、質の高い番組制作ができること。 								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	前期「映像技術A」の内容を理解していること								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・担当作成のスライド・資料 ・ポストプロダクション技術マニュアル・映像音響処理技術者資格認定試験問題集(2026年度版:日本ポストプロダクション協会) ・テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) 								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの要点をまとめたスライドで、授業を進めます。必ず専用ノートを用意して必ず記録すること。また、授業内容をより理解するためには、テキストを授業前または授業後に必ず熟読すること。 ・授業の最後に「振り返り」のため、映像音響処理技術者資格認定試験問題集の中から「宿題」を出すこともあります。次の授業時間まで必ず演習を行い、授業に臨むこと。 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験80%・授業への取り組み姿勢(聴講)20%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	デジタル映像信号の測定、伝送信号の測定、HDRの測定①
第2週	デジタル映像信号の測定、伝送信号の測定、HDRの測定②
第3週	マスターモニター(必要な特性、設置環境)、D65とD93、MPCD①
第4週	マスターモニター(必要な特性、設置環境)、D65とD93、MPCD②
第5週	編集作業前の準備と編集時の注意点
第6週	検定対策(2026年度版映像音響処理技術者資格認定試験問題集「技術基礎問題」演習・解説)①
第7週	検定対策(2026年度版映像音響処理技術者資格認定試験問題集「技術基礎問題」演習・解説)②
第8週	検定対策(2026年度版映像音響処理技術者資格認定試験問題集「技術基礎問題」演習・解説)③
第9週	検定対策(2026年度版映像音響処理技術者資格認定試験問題集「映像基礎問題」演習・解説)①
第10週	検定対策(2026年度版映像音響処理技術者資格認定試験問題集「映像基礎問題」演習・解説)②
第11週	検定対策(2026年度版映像音響処理技術者資格認定試験問題集「映像基礎問題」演習・解説)③
第12週	検定対策(2026年度版映像音響処理技術者資格認定試験問題集「音響基礎問題」演習・解説)①
第13週	検定対策(2026年度版映像音響処理技術者資格認定試験問題集「音響基礎問題」演習・解説)②
第14週	検定対策(2026年度版映像音響処理技術者資格認定試験問題集「音響基礎問題」演習・解説)③
第15週	後期期末試験 ⇒内容によっては、2026年度版映像音響処理技術者資格認定試験問題集の「解説」で授業を進めます。 ⇒授業の進捗によって変更する場合あり

科目名	音響技術A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的／概要	<p>【目的】 音の理論を理解するとともに、音響機器の名称、役割、構造、動作原理など、音を具体的に表現するために必要な機器動作を理解し、映像音響処理技術者認定試験の合格をめざすことを目的とする。</p> <p>【概要】 音源や音響の基礎、音響機器の種類、構造、機能、用途やミキシング技術、音響デザイン、機器メンテナンスなどを学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 音響理論である音の三要素や聴覚効果など音響の基本的な事柄が説明できる。 マイクの種類や特性、ミキサーなど音響機器の構造や動作が説明できる。 楽器を中心とした音の特性を説明できる。 仕事別音響設備が理解できる。 各規格を理解し対応できる。 								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	交流信号などの電氣的知識が多少必要								
使用教材	ポストプロダクション技術マニュアル(JPPA)								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 授業は板書するので、ノートを用意すること。 大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をすること。 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査80%授業への取り組み姿勢20%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	音の理論①
第3週	音の理論②
第4週	音の理論③
第5週	音の理論④
第6週	音の理論⑤
第7週	音響機器の名称①
第8週	音響機器の名称②
第9週	音響機器の名称③
第10週	音響機器の名称④
第11週	音響機器の役割①
第12週	音響機器の役割②
第13週	音響機器の役割③
第14週	音響機器の役割④
第15週	前期期末試験

科目名	音響技術B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的／概要	<p>【目的】 音の理論を理解するとともに、音響機器の名称、役割、構造、動作原理など、音を具体的に表現するために必要な機器動作を理解し、映像音響処理技術者認定試験の合格をめざすことを目的とする。</p> <p>【概要】 音源や音響の基礎、音響機器の種類、構造、機能、用途やミキシング技術、音響デザイン、機器メンテナンスなどを学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 音響理論である音の三要素や聴覚効果など音響の基本的な事柄が説明できる。 マイクの種類や特性、ミキサーなど音響機器の構造や動作が説明できる。 楽器を中心とした音の特性を説明できる。 仕事別音響設備が理解できる。 各規格を理解し対応できる。 								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	前期「音響技術A」の内容を理解していること								
使用教材	ポストプロダクション技術マニュアル(JPPA)								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 授業は板書するので、ノートを用意すること。 大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をすること。 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査80%授業への取り組み姿勢20%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	音響機器の使用方法:マイク①
第2週	音響機器の使用方法:マイク②
第3週	音響機器の使用方法:マイク③
第4週	音響機器の使用方法:マイク④
第5週	音響機器の使用方法:ミキサー①
第6週	音響機器の使用方法:ミキサー②
第7週	音響機器の使用方法:ミキサー③
第8週	音響機器の使用方法:ミキサー④
第9週	音響機器の使用方法:ミキサー⑤
第10週	音響設備・システムについて①
第11週	音響設備・システムについて②
第12週	音響設備・システムについて③
第13週	音響設備・システムについて④
第14週	音響設備・システムについて⑤
第15週	後期期末テスト

科目名	照明技術 I A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	原田 建			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 対談番組や歌番組などスタジオ制作実習を通して、基本照明から番組形態による照明、更に演出を考えた照明など、照明技術から照明演出までトータル的に修得することを目的とする。</p> <p>【概要】 舞台機構とテレビスタジオ機構の理解各照明機構と舞台テレビ用語の理解、各照明器具の取り扱い方の理解と実技 を通して①スタジオ一般照明②イベント照明 ③音楽照明 ④芝居・ドラマ(心理描写を表現する)照明 を実践するための基礎を学ぶ。</p>								
到達目標	一般(環境)照明と演劇照明(舞台、テレビ、映画)の違いを理解すること。合わせて演劇照明技術、電気・電子・照明各工学系の基礎理論を理解して演劇照明を実践する為の基礎知識を身につけ、番組制作実習において、具体的に実践できる。								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2028年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	高校までに学んだ学習内容と一般常識								
使用教材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)								
履修上の注意	教科書の内容や板書したものだけでなく講義中に話した内容にも十分に注意し、ノートやメモなどを取る。事前に次回の講義範囲を提示するので、教科書や参考書に目を通し予習しておくこと。								
成績評価の方法	・定期考査80%・課題小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	一般照明と舞台、テレビ、映画の照明の違い①
第3週	一般照明と舞台、テレビ、映画の照明の違い②
第4週	一般照明と舞台、テレビ、映画の照明の違い③
第5週	舞台、テレビの照明設備とその歴史①
第6週	舞台、テレビの照明設備とその歴史②
第7週	舞台、テレビの照明設備とその歴史③
第8週	舞台、テレビの照明設備とその歴史④
第9週	舞台、テレビの照明設備とその歴史⑤
第10週	光と色、視覚について、照明工学、明視論①
第11週	光と色、視覚について、照明工学、明視論②
第12週	光と色、視覚について、照明工学、明視論③
第13週	光と色、視覚について、照明工学、明視論④
第14週	光と色、視覚について、照明工学、明視論⑤
第15週	後期期末試験

科目名	照明技術 I B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	原田 建			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 対談番組や歌番組などスタジオ制作実習を通して、基本照明から番組形態による照明、更に演出を考えた照明など、照明技術から照明演出までトータル的に修得することを目的とする。</p> <p>【概要】 舞台機構とテレビスタジオ機構の理解各照明機構と舞台テレビ用語の理解、各照明器具の取り扱い方の理解と実技 を通して①スタジオ一般照明②イベント照明 ③音楽照明 ④芝居・ドラマ(心理描写を表現する)照明 を実践するための基礎を学ぶ。</p>								
到達目標	一般(環境)照明と演劇照明(舞台、テレビ、映画)の違いを理解すること。合わせて演劇照明技術、電気・電子・照明各工学系の基礎理論を理解して演劇照明を実践する為の基礎知識を身につけ、番組制作実習において、具体的に実践できる。								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2028年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	前期「照明技術 I A」の内容を理解していること								
使用教材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)								
履修上の注意	教科書の内容や板書したものだけでなく講義中に話した内容にも十分に注意し、ノートやメモなどを取る。事前に次回の講義範囲を提示するので、教科書や参考書に目を通し予習しておくこと。								
成績評価の方法	・定期考査80%・課題小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	光源、調光装置と照明器具①
第2週	光源、調光装置と照明器具②
第3週	光源、調光装置と照明器具③
第4週	舞台、テレビの照明技術の基礎理論①
第5週	舞台、テレビの照明技術の基礎理論②
第6週	舞台、テレビの照明技術の基礎理論③
第7週	舞台、テレビの照明技術の基礎理論④
第8週	舞台、テレビの照明技術の基礎理論⑤
第9週	照明デザインと仕込み図の制作①
第10週	照明デザインと仕込み図の制作②
第11週	照明デザインと仕込み図の制作③
第12週	舞台機構と安全管理①
第13週	舞台機構と安全管理②
第14週	舞台機構と安全管理③
第15週	後期期末試験

科目名	著作権				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	篠 拓勇希			実務経験					
目的／概要	映像制作やコンテンツ制作に必要な著作権の基礎知識を習得するとともに、ビジネス著作権検定初級の合格を目指す。著作物の利用ルール、権利関係、契約の基本を理解し、制作現場において適切に著作物を取り扱う能力を身につける。								
到達目標	著作権の基本概念(著作物・著作者・権利の種類)を理解する 著作物の利用に関するルールを説明できる 映像制作における著作権上の注意点を理解する フリー素材や引用など適切な利用判断ができる ビジネス著作権検定初級レベルの問題を解答できる								
目標資格	ビジネス著作権検定 初級【検定日】2026年11月8日(日)【検定料】5,800円								
前提知識	高校までに学んだ学習内容と一般常識								
使用教材	ビジネス著作権検定 公式テキスト[BASIC・初級]								
履修上の注意	著作権は映像制作において重要なルールであり、違反はトラブルにつながるため、実例を踏まえて理解すること。また、検定試験合格を目標として継続的に復習を行うこと。								
成績評価の方法	・期末試験80%・小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス・著作権とは何か
第2週	著作物
第3週	著作者
第4週	著作者の権利
第5週	著作権の譲渡と利用許諾
第6週	著作権の制限
第7週	著作隣接権
第8週	著作権の侵害
第9週	知的財産権制度
第10週	情報社会と情報モラル
第11週	映像制作との関係
第12週	検定対策①
第13週	検定対策②
第14週	検定対策③
第15週	期末試験

科目名	企画・構成A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	小池 悟志			実務経験	カメラマンとして民間放送局グループ企業および番組制作会社の撮影部に所属				
目的／概要	<p>【目的】映像制作において必要となる「企画力」と「構成力」を養い、番組や映像コンテンツの企画立案から台本作成までの基本的な制作プロセスを理解することを目的とする。</p> <p>【概要】映像コンテンツ制作の出発点となる「企画」と「構成」の基本を学ぶ。アイデアの発想方法、企画書の作成、ストーリー構成の考え方、台本の書き方などについて講義と演習を通して理解を深める。最終的には、</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 映像コンテンツの企画立案の基本的な考え方を説明できる。 アイデアを整理し、企画書としてまとめることができる。 映像作品の基本的な構成(起承転結・三幕構成など)を理解できる。 簡単な映像台本(構成台本)を作成することができる。 								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	特別な前提知識は必要としない。 ただし、映像制作に関する科目と関連するため、授業内容に関心を持って取り組むことが望ましい。								
使用教材	担当者作成のプリント(解説プリント) 世界一わかりやすい動画制作の教科書								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 授業では企画立案や台本作成などの演習を行うため、積極的にアイデアを出し発言することが求められる。 提出課題として企画書や台本の作成を行う。締切を守ること。 日常的にテレビ番組、動画コンテンツ、映画、SNS動画などを視聴し、企画や構成の工夫を観察する姿勢を持つこと。 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 課題評価80%・小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	映像コンテンツの企画とは
第3週	番組企画・動画企画の基本要素
第4週	アイデア発想法 ブレインストーミング／発想の広げ方①
第5週	アイデア発想法 ブレインストーミング／発想の広げ方②
第6週	アイデア発想法 ブレインストーミング／発想の広げ方③
第7週	企画の整理方法 コンセプト・ターゲット・目的の設定①
第8週	企画の整理方法 コンセプト・ターゲット・目的の設定②
第9週	企画の整理方法 コンセプト・ターゲット・目的の設定③
第10週	企画書のフォーマットと書き方
第11週	企画書作成演習① テーマ設定と企画アイデアの作成①
第12週	企画書作成演習② テーマ設定と企画アイデアの作成②
第13週	企画書作成演習③ テーマ設定と企画アイデアの作成③
第14週	企画書作成演習④ 企画書のブラッシュアップ
第15週	企画書作成演習⑤ 企画書の発表

科目名	企画・構成B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	小池 悟志			実務経験	カメラマンとして民間放送局グループ企業および番組制作会社の撮影部に所属				
目的／概要	<p>【目的】映像制作において必要となる「企画力」と「構成力」を養い、番組や映像コンテンツの企画立案から台本作成までの基本的な制作プロセスを理解することを目的とする。</p> <p>【概要】映像コンテンツ制作の出発点となる「企画」と「構成」の基本を学ぶ。アイデアの発想方法、企画書の作成、ストーリー構成の考え方、台本の書き方などについて講義と演習を通して理解を深める。最終的には、</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 映像コンテンツの企画立案の基本的な考え方を説明できる。 アイデアを整理し、企画書としてまとめることができる。 映像作品の基本的な構成(起承転結・三幕構成など)を理解できる。 簡単な映像台本(構成台本)を作成することができる。 								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	前期「企画・構成A」の内容を理解していること								
使用教材	担当者作成のプリント(解説プリント) 世界一わかりやすい動画制作の教科書								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 授業では企画立案や台本作成などの演習を行うため、積極的にアイデアを出し発言することが求められる。 提出課題として企画書や台本の作成を行う。締切を守ること。 日常的にテレビ番組、動画コンテンツ、映画、SNS動画などを視聴し、企画や構成の工夫を観察する姿勢を持つこと。 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 課題評価80%・小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	映像構成の基本 起承転結・三幕構成
第2週	番組構成の考え方 導入・展開・まとめ／視聴者を引きつける構成①
第3週	番組構成の考え方 導入・展開・まとめ／視聴者を引きつける構成②
第4週	台本の役割と種類 構成台本・シナリオ・ナレーション原稿
第5週	台本の書き方 映像と音声の書き分け／基本フォーマット①
第6週	台本の書き方 映像と音声の書き分け／基本フォーマット②
第7週	台本作成演習① 短い映像企画を台本化する①
第8週	台本作成演習① 短い映像企画を台本化する②
第9週	台本作成演習① 短い映像企画を台本化する③
第10週	台本作成演習② 台本の改善と構成の見直し①
第11週	台本作成演習② 台本の改善と構成の見直し②
第12週	台本作成演習② 台本の改善と構成の見直し③
第13週	台本発表・講評①
第14週	台本発表・講評②
第15週	企画・構成の振り返り／映像制作への応用

科目名	カメラワーク実習				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	小池 悟志			実務経験	カメラマンとして民間放送局グループ企業および番組制作会社の撮影部に所属				
目的/概要	<p>【目的】 実習を通じてカメラと三脚の取り扱い方を身に付けるとともに、カメラポジションやアングル、画面サイズなどを学び、カメラマンとしての基礎スキルを身に付けることを目的とする。</p> <p>【概要】 映像表現に必要な不可欠なカメラワーク(ポジション・アングル・サイズ・カメラ操作・画面構成)を実習を通して学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の操作を通して、レンズの構造や操作方法、カメラの構造と操作方法、さらに状況に合わせた撮影に必要な具体的操作ができること。 ・撮影における三脚の重要性と手持ち撮影の違いを理解し、操作できること。 ・作品制作やインターンシップ(校外実習)等で通用するカメラワークを修得する。 ・コンテンツに合わせた表現方法やメディアに合わせた構図表現ができること。 								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	特になし								
使用教材	担当者作成のプリント(解説プリント) テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) プロのためのビデオ取材(日本映画テレビ技術協会) 業務用スタジオカメラ・業務用ENGカメラ								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら目標を決めて前向きに取り組む姿勢が必要 ・レポート作成に当たっては、しっかり調べて完成度の高いレポートを作成すること。 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技評価、・レポート70%・授業への取り組む姿勢30%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	レンズの構造や操作方法、カメラの構造と操作方法、状況に合わせた撮影に必要な具体的操作①
第3週	レンズの構造や操作方法、カメラの構造と操作方法、状況に合わせた撮影に必要な具体的操作②
第4週	撮影における三脚の重要性とフリーハンド撮影の違いを理解する。
第5週	【実習】①レンズ操作
第6週	【実習】②カメラポジション
第7週	【実習】③カメラアングル、サイズ
第8週	【実習】④カメラ操作、構図①
第9週	【実習】⑤カメラ操作、構図②
第10週	【課題撮影実習】①スタジオ撮影、取材撮影による課題撮影を行う。
第11週	【課題撮影実習】②スタジオ撮影、取材撮影による課題撮影を行う。
第12週	【課題撮影実習】③スタジオ撮影、取材撮影による課題撮影を行う。
第13週	【課題撮影実習】④スタジオ撮影、取材撮影による課題撮影を行う。
第14週	【課題撮影実習】⑤スタジオ撮影、取材撮影による課題撮影を行う。
第15週	【レポート作成】撮影映像を自己評価を行い、レポートにまとめる。

科目名	スタジオ制作基礎実習A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	篠 拓勇希			実務経験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。				
目的/概要	テレビスタジオで使用される映像制作機材の基本操作を実習形式で学び、番組制作の基礎的な制作フローを理解する。カメラ、スイッチャー、音声、照明などの機材操作に加え、映像信号の確認に使用される測定機器(ウェーブフォームモニター、ベクトルスコープ等)の基本的な見方を学び、映像品質管理の基礎知識を身につける。スタジオ制作におけるスタッフの役割分担や連携を理解し、チーム制作の基礎を習得する。								
到達目標	スタジオ制作で使用される主要機材の基本操作を理解する。 映像制作スタッフの役割(ディレクター、カメラ、VE等)を説明できる。 スタジオ制作の基本的な制作手順を理解する。 ウェーブフォームモニターやベクトルスコープの基本的な役割を理解する。 映像信号のレベルや色の状態を簡単に確認できる。 スタッフ間の連携を意識して制作に参加できる。								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	高等学校を卒業した程度の知識								
使用教材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) ポストプロダクション技術マニュアル(日本ポストプロダクション協会) プロのためのビデオ取材(日本映画テレビ技術協会)								
履修上の注意	スタジオ機材は高価であり安全管理が重要であるため、授業中は教員の指示に従い適切に取り扱うこと。 また、実習はチーム制作で行うため、協力して作業に取り組むこと。								
成績評価の方法	・実技評価、・レポート70%・授業への取り組む姿勢30%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	スタジオ設備の説明
第3週	スタジオ番組制作の流れ、映像制作スタッフの役割
第4週	スタジオ機材の種類と役割
第5週	スタジオカメラの構造、カメラ操作(パン・チルト・ズーム)、フレーミングと画角
第6週	カメラワーク演習
第7週	映像信号の基礎(映像レベル・同期信号など)、ウェーブフォームモニターの見方、ベクトルスコープの見方①
第8週	映像信号の基礎(映像レベル・同期信号など)、ウェーブフォームモニターの見方、ベクトルスコープの見方②
第9週	スイッチャーの基礎
第10週	スイッチング演習
第11週	音声機材の基礎
第12週	音声収録演習
第13週	照明機材の基礎
第14週	スタジオ照明演習
第15週	前期まとめ実習

科目名	スタジオ制作基礎実習B				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	篠 拓勇希			実務経験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。				
目的/概要	テレビスタジオで使用される映像制作機材の基本操作を実習形式で学び、番組制作の基礎的な制作フローを理解する。カメラ、スイッチャー、音声、照明などの機材操作に加え、映像信号の確認に使用される測定機器(ウェーブフォームモニター、ベクトルスコープ等)の基本的な見方を学び、映像品質管理の基礎知識を身につける。スタジオ制作におけるスタッフの役割分担や連携を理解し、チーム制作の基礎を習得する。								
到達目標	スタジオ制作で使用される主要機材の基本操作を理解する。 映像制作スタッフの役割(ディレクター、カメラ、VE等)を説明できる。 スタジオ制作の基本的な制作手順を理解する。 ウェーブフォームモニターやベクトルスコープの基本的な役割を理解する。 映像信号のレベルや色の状態を簡単に確認できる。 スタッフ間の連携を意識して制作に参加できる。								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	前期「スタジオ番組制作基礎実習A」の内容を理解していること								
使用教材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) ポストプロダクション技術マニュアル(日本ポストプロダクション協会) プロのためのビデオ取材(日本映画テレビ技術協会)								
履修上の注意	スタジオ機材は高価であり安全管理が重要であるため、授業中は教員の指示に従い適切に取り扱うこと。 また、実習はチーム制作で行うため、協力して作業に取り組むこと。								
成績評価の方法	・実技評価、・レポート70%・授業への取り組む姿勢30%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	前期内容の復習
第2週	カメラ配置とマルチカメラ収録①
第3週	カメラ配置とマルチカメラ収録②
第4週	カメラワーク応用
第5週	スイッチング応用
第6週	フロアオペレーション
第7週	ディレクション基礎①
第8週	ディレクション基礎②
第9週	台本作成
第10週	台本を用いた収録演習①
第11週	台本を用いた収録演習②
第12週	スタジオ収録実習①
第13週	スタジオ収録実習②
第14週	スタジオ収録実習③
第15週	まとめ・講評

科目名	スタジオ音声基礎実習				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	篠 拓勇希			実務経験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。				
目的/概要	スタジオ番組制作およびロケーション制作において必要となる音声収録の基礎技術を習得する。マイクの種類や特性、ミキサーの基本操作、音声レベルの管理などを実習を通して学び、映像制作において実用的な音声収録ができる能力を身につける。また、収録時に起こりやすいトラブルへの対応や、聞き取りやすい音声を収録するための基礎知識を習得する。								
到達目標	基本的な音声機材(マイク・ミキサー等)の役割を理解する シンプルなミキサー操作(レベル調整)ができる 音割れやノイズを防いだ音声収録ができる 映像に適した音声レベルを判断できる スタジオおよびロケで基本的な音声収録ができる								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	1年次前期で学んだ音響技術								
使用教材	・ポストプロダクション技術マニュアル(日本ポストプロダクション協会)								
履修上の注意	映像コンテンツ制作には音声(音響技術)が欠かせないことを意識して授業を受けること。								
成績評価の方法	・実技評価、・レポート70%・授業への取り組む姿勢30%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス・音声の重要性(映像における音の役割)
第2週	音の基礎(音量・周波数・聞こえ方)、音声トラブルの種類(ノイズ・歪み・環境音)
第3週	マイクの種類(ハンド・ピン・ガンマイク)
第4週	マイクの特性と使い分け
第5週	ミキサーの基本操作(フェーダー・ゲイン)
第6週	音声レベルの基礎(適正レベル)
第7週	音声収録実習①(インタビュー)
第8週	音声収録実習②(スタジオ)
第9週	マイキング(マイク位置の工夫)
第10週	環境音とノイズ対策
第11週	ロケーション音声の基礎
第12週	スタジオ収録実習①
第13週	スタジオ収録実習②
第14週	ロケ収録実習①
第15週	ロケ収録実習②

科目名	ハンリニア編集実習				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間／週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	篠 拓勇希			実務経験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。				
目的／概要	映像編集ソフト(Adobe Premier Pro)を使用し、映像編集の基本技術を習得する。素材管理、カット編集、テロップ、音声処理など編集作業の基礎を実習を通して学び、映像作品制作の基礎能力を身につける。								
到達目標	映像編集ソフトの基本操作を理解する カット編集の基本を実践できる テロップやBGMなどの基本編集ができる 短い映像作品を完成させることができる								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	パソコン操作の基礎知識								
使用教材	PremierePro&AfterEffects(cc/cs6対応版)(技術評論社)								
履修上の注意	映像編集の目的を理解し、いろいろな表現をイメージ出来るように取り組む。								
成績評価の方法	・制作課題70%・授業への取り組む姿勢30%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	編集ソフトの基本操作:アプリケーションの概要
第3週	編集ソフトの基本操作:素材取り込み
第4週	編集ソフトの基本操作:カット編集、トリミング
第5週	編集ソフトの基本操作:トランジション
第6週	編集ソフトの基本操作:エフェクト
第7週	テロップ作成①
第8週	テロップ作成②
第9週	BGM・音声編集①
第10週	BGM・音声編集②
第11週	作品制作①
第12週	作品制作②
第13週	作品制作③
第14週	作品制作④
第15週	作品講評

科目名	画像編集実習				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間／週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	篠 拓勇希			実務経験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。				
目的／概要	映像制作において必要となる画像編集およびモーショングラフィックスの基礎技術を習得する科目である。前期では画像編集ソフト Photoshop を用いて画像加工や文字デザインの基本操作を学び、番組テロップやタイトル制作に必要なデザイン技術を習得する。After Effects を用いたモーショングラフィックスの基礎を学び、テロップアニメーションやタイトル映像の制作を行う。実習を通して、映像作品に適したテロップやタイトルを制作できる能力を身につける。								
到達目標	Photoshopの基本操作を理解し、画像編集を行うことができる。 テレビ番組や映像作品で使用されるテロップデザインの基礎を理解する。 テロップやタイトル画像を制作することができる。 After Effectsの基本操作を理解する。 簡単なテロップアニメーションやタイトル映像を制作することができる。 映像制作に適したデザインや動きの表現を理解する。								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	前期「ノンリニア編集実習」の知識								
使用教材	Photoshopしっかり入門(SBクリエイティブ) Premiere Pro & After Effects(技術評論社)								
履修上の注意	テロップの目的を理解し、いろいろな表現をイメージ出来るように取り組む。								
成績評価の方法	・制作課題70%・授業への取り組み姿勢30%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス・画像編集の基礎
第2週	Photoshopの画面構成と基本操作、画像の開き方と保存形式
第3週	選択範囲、レイヤー①
第4週	選択範囲、レイヤー②
第5週	画像補正(明るさ・色調整)
第6週	文字ツールの基本、フォントと文字デザイン
第7週	テロップ制作、番組タイトル制作
第8週	作品制作
第9週	After Effects概要と基本操作
第10週	モーショングラフィックス基礎、コンポジションの作成
第11週	タイトルアニメーション制作
第12週	映像素材との合成
第13週	作品制作
第14週	作品制作
第15週	作品講評

科目名	CG制作基礎実習				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間／週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	井上 将人			実務経験	業務系アプリケーション開発にて、企業向けアプリケーション開発を経験、その後ポストプロダクションにて映像制作のサポートやトラブルシューティングを行う。				
目的／概要	<p>【目的】 3DCGの基礎を修得しリアルタイム映像用素材を作成できるようになることを目的とする。</p> <p>【概要】 3DCG制作ソフトの基本操作を学修し、CG制作の基礎を学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・3DCGアプリケーションを用いて簡単なCGモデルが制作できるようになる。 ・自作した画像をCGモデルに適用し、テクスチャマッピングが行なえるようになる。 								
目標資格	無し								
前提知識	一年次前期に学習した科目の知識								
使用教材	教員が配布する資料、データ								
履修上の注意	・3DCG制作実習は提出した作品データで評価する。未提出は評価しないので注意すること。								
成績評価の方法	・課題提出、課題作品評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス
第2週	3DCGアプリケーション基本操作①
第3週	3DCGアプリケーション基本操作①
第4週	ポリゴンモデリングの基本
第5週	ライティングの基本
第6週	カメラ設定の基本①
第7週	カメラ設定の基本②
第8週	アニメーション制作の基本①
第9週	アニメーション制作の基本②
第10週	アニメーション制作の基本③
第11週	UV設定とテクスチャマッピングの基本
第12週	課題制作①
第13週	課題制作②
第14週	課題制作③
第15週	課題制作④

科目名	ロケーション番組制作基礎実習A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	篠 拓勇希			実務経験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。				
目的/概要	ロケーション撮影に必要な基本的な機材操作および番組制作の流れを実習形式で学ぶ。カメラ、音声、照明機材の基本的な取り扱いを習得するとともに、ロケーションにおける撮影手法や取材の基本を理解する。簡単なロケ番組制作を通して、企画から撮影・編集までの一連の制作工程を体験し、映像制作の基礎能力を身につける。								
到達目標	ロケーション撮影で使用する機材の基本操作ができる 安全に配慮した機材運用ができる ロケ撮影における基本的なカメラワークを実践できる インタビューや簡単な取材ができる ロケ番組制作の基本的な流れを理解する 簡単なロケ映像作品を制作できる								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	なし								
使用教材	教員が配布する資料、データ								
履修上の注意	屋外での撮影を伴うため、安全管理および機材の取り扱いには十分注意すること。グループでの制作を基本とするため、協力して作業を進めること。								
成績評価の方法	・課題提出、課題作品評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	前期
第2週	ガイダンス・ロケ番組の特徴
第3週	ロケ制作の流れ(企画～完成まで)
第4週	ロケ機材の種類と役割・安全管理と機材取り扱い
第5週	カメラの基本操作
第6週	露出・ホワイトバランス
第7週	手持ち撮影・三脚・固定撮影①
第8週	手持ち撮影・三脚・固定撮影②
第9週	カメラワーク演習
第10週	ロケ音声の基礎・マイクの使い方(ガン・ピン)
第11週	音声収録演習
第12週	ロケ撮影演習(短尺映像制作)①
第13週	ロケ撮影演習(短尺映像制作)②
第14週	ロケ撮影演習(短尺映像制作)③
第15週	ロケ撮影演習(短尺映像制作)④

科目名	ロケーション番組制作基礎実習B				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	篠 拓勇希			実務経験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。				
目的/概要	ロケーション撮影に必要な基本的な機材操作および番組制作の流れを実習形式で学ぶ。カメラ、音声、照明機材の基本的な取り扱いを習得するとともに、ロケーションにおける撮影手法や取材の基本を理解する。簡単なロケ番組制作を通して、企画から撮影・編集までの一連の制作工程を体験し、映像制作の基礎能力を身につける。								
到達目標	ロケーション撮影で使用する機材の基本操作ができる 安全に配慮した機材運用ができる ロケ撮影における基本的なカメラワークを実践できる インタビューや簡単な取材ができる ロケ番組制作の基本的な流れを理解する 簡単なロケ映像作品を制作できる								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	前期「ロケーション番組制作基礎実習A」の内容を理解していること								
使用教材	教員が配布する資料、データ								
履修上の注意	屋外での撮影を伴うため、安全管理および機材の取り扱いには十分注意すること。グループでの制作を基本とするため、協力して作業を進めること。								
成績評価の方法	・課題提出、課題作品評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	前期の復習
第2週	インタビュー撮影の基礎①
第3週	インタビュー撮影の基礎②
第4週	カット割と構成
第5週	ロケハンの方法・撮影計画作成①
第6週	ロケハンの方法・撮影計画作成②
第7週	企画立案・構成作成
第8週	ロケ撮影①
第9週	ロケ撮影②
第10週	ロケ撮影③
第11週	編集①
第12週	編集②
第13週	編集③
第14週	仕上げ
第15週	作品講評

科目名	映像表現ワークショップ I				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	篠 拓勇希			実務経験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。				
目的/概要	映像制作における表現力の向上を目的とし、作品制作および批評活動を通して創造力と分析力を養う。各種コンテストへの出品を視野に入れた作品制作を行い、他者の作品の講評やディスカッションを通して、多角的な視点から映像表現を理解する力を身につける。								
到達目標	自らの発想に基づいた映像作品を企画・制作できる 映像表現(構図・編集・演出等)を意識した作品制作ができる 他者の作品を分析し、論理的に意見を述べるができる 批評を受けて作品を改善することができる コンテスト出品レベルの作品を完成させることができる								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2027年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	なし								
使用教材	特定の教科書は使用せず、必要に応じて映像作品や資料を提示する								
履修上の注意	本授業は作品制作および講評を中心とするため、主体的に制作・発言に取り組むこと。作品提出期限を厳守すること。								
成績評価の方法	・課題提出、課題作品評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス・授業目的説明
第2週	映像表現とは何か(演出・構図・編集)
第3週	企画立案
第4週	企画講評
第5週	制作準備
第6週	作品制作
第7週	コンテスト研究
第8週	企画立案(コンテスト向け)
第9週	作品制作①
第10週	作品制作②
第11週	作品制作③
第12週	作品制作④
第13週	出品作品講評
第14週	自由制作または追加制作
第15週	総作品講評

映像放送科

2年

科目名	就職対策Ⅱ				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2年次	履修学期	前期	時間／週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	篠 拓勇希			実務経験					
目的／概要	<p>【目的】 就職試験対策と職場の人間関係に必要な「一般常識」を学び、就職活動(エントリーシート作成・履歴書記入・作文・面接試験)の支援を目的とする。</p> <p>【概要】 受験企業の研究、時事問題対策、面接訓練など、実践的な就活トレーニングをする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 志望業種別或いは志望企業向けのエントリーシート及び履歴書作成の演習を行い就職への意識向上を図り、受験企業に提出する履歴書が書ける。 作文と論文を書く演習を通して、実際の試験でのテーマの絞込み、時間配分などを身に付け、具体的な論作文が書ける。 入退出から応対、言葉使いなど、演習を通じて面接に必要な知識を身につけ、実際の面接で「自分を自然に表現」出来るように行動できる。 面談を通して、就職の意義、情報提供、活動状況を共有し、内定を得る。 								
目標資格	なし								
前提知識	なし								
使用教材	担当者作成のプリント 面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)								
履修上の注意	常に就職への意識を持って授業に取り組むこと								
成績評価の方法	・一般常識実力試験80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	エントリーシート、履歴書記入演習①
第3週	エントリーシート、履歴書記入演習②
第4週	エントリーシート、履歴書記入演習③
第5週	エントリーシート、履歴書記入演習④
第6週	面接試験対策(入退出から応対、言葉使い、質疑応答)演習①
第7週	面接試験対策(入退出から応対、言葉使い、質疑応答)演習②
第8週	面接試験対策(入退出から応対、言葉使い、質疑応答)演習③
第9週	作文、論文演習①
第10週	作文、論文演習②
第11週	作文、論文演習③
第12週	個別面談①
第13週	個別面談②
第14週	個別面談③
第15週	個別面談④

科目名	放送システム				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2年次	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	八巻 吉市			実務経験	民間放送局で放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に勤務				
目的/概要	<p>【目的】放送業務に「放送エンジニア」として携わるためには「幅広い専門知識」と「放送業務特有の知識・技術」が求められる。それらの知識、技術は現場で多くのことを修得するが、その知識、技術を修得するためのベースとなる知識・技術を「放送システム」の授業で学び、習得し、放送・配信業務を円滑に行えることを目的とする。</p> <p>【概要】放送ネットワーク、CM放送、地上デジタル放送のシステムを通して、符号化技術、伝送技術、デジタル変調技術を学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中継システムと伝送方法(FPU伝送、CS伝送、IP伝送)を結びつけて説明ができる。 ・地上デジタル放送とBSデジタル放送の違いを説明できる。 ・高効率符号化技術(映像・音声・多重、伝送)をそれぞれ説明できる。 ・伝送路の違いによる変調方式について、説明できる。 ・デジタル伝送方式の種類を説明できる ・ネット配信とワンセグについて、説明できる。 								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2026年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	1年次に履修した映像技術の知識								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・担当作成のスライド・資料 ・テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) ・ポストプロダクション技術マニュアル・映像音響処理技術者資格認定試験問題集(2025年度版:日本ポストプロダクション協会) 								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド内容、資料等を記録する専用のノートを用意すること。 ・放送現場での知識・技術修得するための基本となる授業内容ですので、しっかり習得すること。 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験80%・授業への取り組み姿勢(聴講)20%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	オリエンテーション(シラバスを元に授業内容について)・映像音響処理技術者資格認定試験問題集演習
第2週	映像音響処理技術者資格認定試験問題集演習(検定対策)
第3週	映像音響処理技術者資格認定試験過去問題演習、解答・解説
第4週	映像音響処理技術者資格認定試験問題集演習(検定対策)
第5週	映像音響処理技術者資格認定試験過去問題演習、解答・解説
第6週	映像音響処理技術者資格認定試験問題集演習(検定対策)
第7週	電波(電波とは、呼称と用途、偏波、伝播)、ワイヤレスシステム
第8週	放送のネットワーク、EDPS、テレビCM(タイムCM、スポットCM)、10桁コード、
第9週	放送運用システム
第10週	局外伝送(FPU伝送、IPボンディング技術、CS伝送、通信衛星の構成)
第11週	デジタル変調(BPSK、QPSK、QAM)、IP伝送、ISDB、レイヤーモデル
第12週	デジタル放送の要素技術(情報源符号化技術、多重化技術、符号化技術)
第13週	映像高効率符号化技術、音声符号化技術、多重化符号化技術、伝送路符号化技術
第14週	OFDM(変調、原理、送信)
第15週	期末試験 ⇒授業の進捗によって変更する場合あり。

科目名	照明技術ⅡA				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2年次	履修学期	前期	時間／週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	原田 建		実務経験	制作技術会社でテレビ照明に従事したほか、イベント・舞台照明にも従事。					
目的／概要	<p>【目的】 スタジオでの実習を通して、基本照明から番組形態による照明、演出を考えた照明などを学び、照明技術の知識を習得するとともに、照明で演出をすることが出来るようになることを目的とする。</p> <p>【概要】 対談番組や歌番組制、ドラマ制作、CM制作実習を通して、作業に関する安全衛生や関係法規、実践的なライティングプランと技術を学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人物の基本照明を理解し、点光源と面光源の違いなどを学ぶ。また、物撮り照明の陰影の違いと人物のライティングを修得する。 対談番組、ニュース番組、歌番組など番組形態の違いによる、照明の考え方、照明器具の選定、仕込み作業、ライティングなど、制作実習を通じて修得する。 番組演出を考えたライティングプランの作成と実際のライティングを修得する。また、暖色系や寒色系など、映像描写を考えた色フィルターの使用などを修得する。 ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いに映像描写、それに伴う照明を修得する。 <p>以上の4点が具体的にできる。または、具体的に説明できることとする。</p>								
目標資格	映像音響処理技術者【検定日】2026年6月上旬【検定料】5,500円(本年度検定料)								
前提知識	1年次に履修した「照明技術Ⅰ」の内容を理解していること								
使用教材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)								
履修上の注意	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・定期考査80%・課題小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	人物の基本照明・点光源と面光源の違い・物撮り照明の陰影の違い・光物のライティング①
第3週	人物の基本照明・点光源と面光源の違い・物撮り照明の陰影の違い・光物のライティング②
第4週	人物の基本照明・点光源と面光源の違い・物撮り照明の陰影の違い・光物のライティング③
第5週	人物の基本照明・点光源と面光源の違い・物撮り照明の陰影の違い・光物のライティング④
第6週	人物の基本照明・点光源と面光源の違い・物撮り照明の陰影の違い・光物のライティング⑤
第7週	人物の基本照明・点光源と面光源の違い・物撮り照明の陰影の違い・光物のライティング⑥
第8週	人物の基本照明・点光源と面光源の違い・物撮り照明の陰影の違い・光物のライティング⑦
第9週	番組形態の違いによる、照明の考え方
第10週	番組形態の違いによる照明器具の選定
第11週	仕込み作業、ライティング①
第12週	仕込み作業、ライティング②
第13週	仕込み作業、ライティング③
第14週	仕込み作業、ライティング④
第15週	前期期末試験

科目名	照明技術ⅡB				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2年次	履修学期	後期	時間／週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	原田 建		実務経験	制作技術会社でテレビ照明に従事したほか、イベント・舞台照明にも従事。					
目的／概要	<p>【目的】 スタジオでの実習を通して、基本照明から番組形態による照明、演出を考えた照明などを学び、照明技術の知識を習得するとともに、照明で演出をすることが出来るようになることを目的とする。</p> <p>【概要】 対談番組や歌番組制、ドラマ制作、CM制作実習を通して、作業に関する安全衛生や関係法規、実践的なライティングプランと技術を学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人物の基本照明を理解し、点光源と面光源の違いなどを学ぶ。また、物撮り照明の陰影の違いと人物のライティングを修得する。 対談番組、ニュース番組、歌番組など番組形態の違いによる、照明の考え方、照明器具の選定、仕込み作業、ライティングなど、制作実習を通じて修得する。 番組演出を考えたライティングプランの作成と実際のライティングを修得する。また、暖色系や寒色系など、映像描写を考えた色フィルターの使用などを修得する。 ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いに映像描写、それに伴う照明を修得する。 <p>以上の4点が具体的にできる。または、具体的に説明できることとする。</p>								
目標資格	なし								
前提知識	1年次に履修した「照明技術Ⅰ」の内容を理解していること、前期「照明技術ⅡA」の内容を理解していること								
使用教材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)								
履修上の注意	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・定期考査80%・課題小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	番組演出を考えたライティングプランの作成①
第2週	番組演出を考えたライティングプランの作成②
第3週	番組演出を考えたライティングプランの作成③
第4週	番組演出を考えた実際のライティング①
第5週	番組演出を考えた実際のライティング②
第6週	番組演出を考えた実際のライティング③
第7週	番組演出を考えた実際のライティング④
第8週	番組演出を考えた実際のライティング⑤
第9週	ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いによる映像描写①
第10週	ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いによる映像描写②
第11週	ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いに伴う照明①
第12週	ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いに伴う照明②
第13週	ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いに伴う照明③
第14週	ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いに伴う照明④
第15週	後期期末試験

科目名	ロケーション番組制作実習				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2年次	履修学期	前期	時間/週	3	総授業時間	90	単位	3
担当教員	篠 拓勇希			実務経験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。				
目的/概要	屋外ロケーションでの番組制作を通して、企画・撮影・編集の流れを実践的に学ぶ。ロケーション撮影に必要な機材運用、取材方法、映像構成などを習得し、番組制作能力の向上を図る。								
到達目標	ロケーション撮影機材の基本操作ができる ロケーション番組の制作工程を理解する 取材や撮影計画を立てることができる ロケ素材を用いた映像作品を制作できる								
目標資格	無し								
前提知識	1年次の履修内容(ノンリニア編集実習、カメラワーク実習など)が理解できていること								
使用教材	実習設備(撮影・編集・音響・照明・ノンリニア編集システム)一式								
履修上の注意	意欲を持って真面目に、積極的に活動すること								
成績評価の方法	・制作課題70%・授業への取り組み姿勢30%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション・ロケ番組の特徴
第2週	企画立案、構成作成①
第3週	企画立案、構成作成②
第4週	ロケハン
第5週	撮影計画作成
第6週	撮影実習①
第7週	撮影実習②
第8週	撮影実習③
第9週	編集作業、ナレーション収録①
第10週	編集作業、ナレーション収録②
第11週	編集作業、ナレーション収録③
第12週	編集作業、ナレーション収録④
第13週	作品仕上げ
第14週	作品上映
第15週	作品講評

科目名	スタジオ番組制作実習A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2年次	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	小池 悟志			実務経験	カメラマンとして民間放送局グループ企業および番組制作会社の撮影部に所属				
目的/概要	実際の番組制作を想定したスタジオ番組制作を行う。企画・構成・台本作成から収録までの制作工程を実践し、番組制作に必要な技術とチームワークを身につける。								
到達目標	スタジオ番組制作の制作工程を理解する。 番組企画や台本に基づいた収録を実施できる。 ディレクターおよび各スタッフの役割を実践できる。 チーム制作において円滑な制作進行ができる。								
目標資格	無し								
前提知識	1年次の履修内容(スタジオ制作基礎実習、スタジオ音声基礎実習など)が理解できていること								
使用教材	実習設備(撮影・編集・音響・照明・ノンリニア編集システム)一式、担当者作成プリント								
履修上の注意	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・制作課題70%・授業への取り組む姿勢30%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	ガイダンス
第3週	番組制作の流れの確認
第4週	番組企画の立案、企画検討、構成作成、台本作成①
第5週	番組企画の立案、企画検討、構成作成、台本作成②
第6週	番組企画の立案、企画検討、構成作成、台本作成③
第7週	カメラプラン作成
第8週	リハーサル準備
第9週	ドライリハ
第10週	技術リハーサル①
第11週	技術リハーサル②
第12週	番組収録①
第13週	番組収録②
第14週	収録映像確認
第15週	改善点検討

科目名	スタジオ番組制作実習B					企業連携	対象科目	授業方法	実習・演習
履修年次	2年次	履修学期	後期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	(株)仙台放送エンタープライズ			実務経験					
目的/概要	<p>「企業連携実習科目」 実際の番組制作を想定したスタジオ番組制作を行う。企画・構成・台本作成から収録までの制作工程を実践し、番組制作に必要な技術とチームワークを身につける。 後期は株式会社仙台放送エンタープライズとの企業連携実習として行う。</p>								
到達目標	<p>スタジオ番組制作の制作工程を理解する。 番組企画や台本に基づいた収録を実施できる。 ディレクターおよび各スタッフの役割を実践できる。 チーム制作において円滑な制作進行ができる。</p>								
目標資格	無し								
前提知識	前期の「スタジオ番組制作実習A」の内容が理解できていること								
使用教材	実習設備(撮影・編集・音響・照明・ノンリニア編集システム)一式、担当者作成プリント								
履修上の注意	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・制作課題70%・授業への取り組む姿勢30%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	前期振り返り
第2週	制作計画立案
第3週	番組企画検討①
第4週	番組企画検討②
第5週	台本作成①
第6週	台本作成②
第7週	カメラワーク確認、技術打ち合わせ
第8週	リハーサル①
第9週	リハーサル②
第10週	スタジオ収録①
第11週	スタジオ収録②
第12週	編集・確認①
第13週	編集・確認②
第14週	改善点検討
第15週	完成作品講評

科目名	CG制作実習A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2年次	履修学期	前期	時間／週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	井上 将人			実務経験	業務系アプリケーション開発にて、企業向けアプリケーション開発を経験、その後ポストプロダクションにて映像制作のサポートやトラブルシューティングを行う。				
目的／概要	<p>【目的】 3DCGの基礎を習得し映像用CG素材を作成できるようになることを目的とする。</p> <p>【概要】 CG制作基礎実習で修得した技術を元実践的な技術修得とCGコンテンツ制作を学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アニメーションが作成できるようになる。 ・実写と3DCGを合成した映像を作れるようになる。 ・チーム制作を通してコミュニケーションや役割分担などの社会性を身に付ける。 								
目標資格	無し								
前提知識	1年次の「CG制作基礎実習」の内容が理解できていること								
使用教材	教員が配布する資料、データ								
履修上の注意	・3DCG制作実習は提出した作品データで評価する。未提出は評価しないので注意すること。								
成績評価の方法	・課題提出、課題作品評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	科目オリエンテーション
第2週	3DCGによる再現映像のアセット作成①
第3週	3DCGによる再現映像のアセット作成②
第4週	3DCGによる再現映像のアセット作成③
第5週	3DCGによる再現映像のアセット作成④
第6週	高度な3Dアニメーション①
第7週	高度な3Dアニメーション②
第8週	高度な3Dアニメーション③
第9週	質感設定とライティング①
第10週	質感設定とライティング②
第11週	カメラアニメーションとレンダリング①
第12週	カメラアニメーションとレンダリング②
第13週	課題制作①
第14週	課題制作②
第15週	課題制作③

科目名	CG制作実習B				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2年次	履修学期	後期	時間／週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	井上 将人			実務経験	業務系アプリケーション開発にて、企業向けアプリ・システム開発を経験、その後ポストプロダクションにて映像制作のサポートやトラブルシューティングを行う。				
目的／概要	<p>【目的】 3DCGの基礎を習得し映像用CG素材を作成できるようになることを目的とする。</p> <p>【概要】 CG制作基礎実習で修得した技術を元実践的な技術修得とCGコンテンツ制作を学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アニメーションが作成できるようになる。 ・実写と3DCGを合成した映像を作れるようになる。 ・チーム制作を通してコミュニケーションや役割分担などの社会性を身に付ける。 								
目標資格	無し								
前提知識	前期の「CG制作実習A」の内容が理解できていること								
使用教材	教員が配布する資料、データ								
履修上の注意	・3DCG制作実習は提出した作品データで評価する。未提出は評価しないので注意すること。								
成績評価の方法	・課題提出、課題作品評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	高品質なCG作品の作成①
第2週	高品質なCG作品の作成②
第3週	高品質なCG作品の作成③
第4週	高品質なCG作品の作成④
第5週	高品質なCG作品の作成⑤
第6週	CGと映像の実写合成①
第7週	CGと映像の実写合成②
第8週	CGと映像の実写合成③
第9週	CGと映像の実写合成④
第10週	CGと映像の実写合成⑤
第11週	チーム制作によるTV番組の作成①
第12週	チーム制作によるTV番組の作成②
第13週	チーム制作によるTV番組の作成③
第14週	チーム制作によるTV番組の作成④
第15週	チーム制作によるTV番組の作成⑤

科目名	電波法規					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	前期	時間／週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	横田 広			実務経験					
目的／概要	<p>【目的】 第一級陸上特殊無線技士 長期型養成課程の法規科目の履修に必要な授業を行う。 無線従事者として必要な電波法、及び関連法を理解することにより、無線局の免許制度や無線設備を操作する無線従事者資格制度を理解し、無線局を運用するにあたっての原則や手続き知り、第一級陸上特殊無線技士の免許を受けるにふさわしい知識を身につけることを目的とする。</p> <p>【概要】 無線通信に必要な電波法規やその他電波法令について学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・電波法の目的、概要の概要を理解する。 ・無線局の免許の概要を理解する。 ・無線従事者の概要を理解する。 ・無線局の運用の概要を理解する。 ・業務書類の概要を理解する。 ・無線設備の概要を理解する。 ・監督の概要を理解する。 ・手数料、電波利用料、罰則の概要を理解する。 <p>以上の項目を理解し、第1級陸上特殊無線技士免許申請の学科認定されること。</p>								
目標資格	第1級陸上特殊無線技士								
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> ・特にないが、法律用語は表現が難しく見慣れない文章が多いので、日頃からさまざまな文章に接しておくことが望ましい。 								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・第一級陸上特殊無線技士用 法規(財団法人 電気通信振興会) ・法規問題プリント 								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用ノートを用意すること。 ・頭で理解するだけでなく、実際に条文や用語を書いたり、声を出して読んだりしながら覚えること。 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、課題評価80%・授業への取り組み姿勢20%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

1週目	オリエンテーション
2週目	電波法の目的、概要①
3週目	電波法の目的、概要②
4週目	電波法の目的、概要③
5週目	無線局の免許①
6週目	無線局の免許②
7週目	無線局の免許③
8週目	無線従事者①
9週目	無線従事者②
10週目	無線局の運用
11週目	業務書類
12週目	無線設備
13週目	監督
14週目	手数料、電波利用料、罰則
15週目	前期期末テスト

科目名	通信工学A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2年次	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	大森 博			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 ラジオ、テレビ、携帯電話、そして無線LANなど、我われの生活を支える基本的な無線技術を理解し、国家資格である第一級陸上特殊無線技士の認定レベルの知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>【概要】 携帯電話や衛星通信などの各種通信方式、送受信機、無線関連設備、アンテナ理論など無線通信について学ぶ。</p>								
到達目標	<p>①マクスウェルの方程式などを通して電磁波の存在を理解するとともに、電波の利用形態を説明できること。</p> <p>②アンテナの基礎理論および代表的なアンテナの構造、動作原理、特徴について説明できること。</p> <p>③代表的な給電線路について、その構造、動作原理、及び特徴を説明できること。</p> <p>以上の項目を理解し、第1級陸上特殊無線技士免許申請の学科認定されること。</p>								
目標資格	第1級陸上特殊無線技士								
前提知識	1年次の「電気工学」が理解できていること。								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「ワイヤレス通信工学(コロナ社)」 ・担当者作成プリント(演習プリント、解説プリント) ・マイクロ波実験装置 								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用ノートを用意すること。 ・実習報告書は期限内に提出すること。 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査80%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	オリエンテーション
第2週	電波の基礎①
第3週	電波の基礎②
第4週	電波の基礎③
第5週	電波の基礎④
第6週	電波の基礎⑤
第7週	電波の基礎⑥
第8週	アンテナの理論と実際①
第9週	アンテナの理論と実際②
第10週	アンテナの理論と実際③
第11週	アンテナの理論と実際④
第12週	給電線路①
第13週	給電線路②
第14週	給電線路③
第15週	期末試験

科目名	通信工学B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2年次	履修学期	後期	時間／週	3	総授業時間	90	単位	6
担当教員	大森 博 横田 広		実務経験						
目的／概要	<p>【目的】 ラジオ、テレビ、携帯電話、そして無線LANなど、我われの生活を支える基本的な無線技術を理解し、国家資格である第一級陸上特殊無線技士の認定レベルの知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>【概要】 携帯電話や衛星通信などの各種通信方式、送受信機、無線関連設備、アンテナ理論など無線通信について学ぶ。</p>								
到達目標	<p>①電波の伝わり方を説明できること。</p> <p>②情報(信号)を電波に乗せて送信するための代表的な変調方式多重化の方式を説明できること。</p> <p>③固定局間通信や移動体通信などの代表的な通信システムを説明できること。</p> <p>以上の項目を理解し、第1級陸上特殊無線技士免許申請の学科認定されること。</p>								
目標資格	第1級陸上特殊無線技士								
前提知識	1年次の「電気工学」が理解できていること。前期の「通信工学A」が理解できていること。								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「ワイヤレス通信工学(コロナ社)」 ・担当者作成プリント(演習プリント、解説プリント) ・マイクロ波実験装置 ・FMトランスミッター組み立てキット 								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用ノートを用意すること。 ・実習報告書は期限内に提出すること。 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査80%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。 								

授業計画・授業内容

第1週	オリエンテーション
第2週	電波伝搬①
第3週	電波伝搬②
第4週	電波伝搬③
第5週	電波伝搬④
第6週	変調方式①
第7週	変調方式②
第8週	変調方式③
第9週	各種通信方式①
第10週	各種通信方式②
第11週	各種通信方式③
第12週	FMトランスミッター組み立て実習①
第13週	FMトランスミッター組み立て実習②
第14週	FMトランスミッター組み立て実習③
第15週	期末試験

科目名	カラーグレーディング				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2年次	履修学期	後期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	篠 拓勇希			実務経験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。				
目的/概要	映像作品における色調整およびカラーグレーディングの基礎技術を習得する。DaVinci Resolveを用いた実習を通して、露出補正や色補正の基本から、映像表現としての色作りまでを学ぶ。映像の意図に応じた色調整を行い、作品の完成度を高めるための技術と考え方を身につける。								
到達目標	DaVinci Resolveの基本操作を理解する 映像の露出・色バランスを適切に調整できる 波形モニター等を用いた映像の状態確認ができる カット間の色を統一することができる 作品の意図に応じた色表現を行うことができる								
目標資格	無し								
前提知識	1年次の履修内容(ノンリニア編集実習、カメラワーク実習など)が理解できていること								
使用教材	手を動かして学ぶDaVinci Resolve映像編集パーフェクト教本(技術評論社)								
履修上の注意	カラーグレーディングは映像の印象を大きく左右する工程であるため、技術だけでなく意図を持って調整を行うこと。また、素材管理やデータの取り扱いにも注意すること。								
成績評価の方法	・制作課題70%・授業への取り組み姿勢30%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス・カラーグレーディングとは何か
第2週	DaVinci Resolveの基本操作
第3週	カラーページの構造
第4週	スコープの基礎(WFM・ベクトルスコープ)
第5週	露出補正(明るさ調整)
第6週	ホワイトバランス調整
第7週	コントラスト調整
第8週	色バランス調整
第9週	カット間の色合わせ
第10週	肌色の調整
第11週	セカンダリーカラーの基礎
第12週	ルック作成(映画風・自然系など)
第13週	作品グレーディング①
第14週	作品グレーディング②
第15週	講評・まとめ

科目名	卒業研究				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2年次	履修学期	後期	時間／週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	小池 悟志			実務経験					
目的／概要	授業で学習した映像制作および演出に関する内容について、自らテーマを設定し、情報収集・調査・分析を行う。調査結果をレポートとしてまとめるとともに、研究発表を通して論理的思考力および表現力の向上を図る。また、研究活動を通して専門分野に対する理解を深め、個々の知識および技能の向上を目的とする。								
到達目標	研究テーマに関する情報を収集・整理できる 収集した情報を基に考察し、論理的にまとめることができる レポートとして適切な形式で文章化できる 研究内容を分かりやすくプレゼンテーションできる 自身の専門分野について主体的に探究できる								
目標資格	無し								
前提知識	無し								
使用教材	思考を鍛えるレポート・論文作成法(慶応義塾大学出版局)								
履修上の注意	研究活動は継続的な取り組みが重要であるため、計画的に作業を進めること。また、引用や参考文献の扱いについては適切なルールに従うこと。								
成績評価の方法	・プレゼンテーション内容・レポート等提出物80%、授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する								

授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス(研究の進め方・評価基準)
第2週	テーマ設定の方法
第3週	テーマ検討
第4週	研究計画作成
第5週	研究計画発表
第6週	フィードバック・修正
第7週	調査実施
第8週	執筆
第9週	中間発表
第10週	レポート構成作成
第11週	執筆①
第12週	執筆②
第13週	執筆③
第14週	発表リハーサル
第15週	最終発表

科目名	卒業制作				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2年次	履修学期	後期	時間／週	3	総授業時間	90	単位	3
担当教員	篠 拓勇希			実務経験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。				
目的／概要	これまでに習得した映像制作に関する知識・技術を総合的に活用し、卒業制作作品の企画・制作を行う科目である。各自またはグループでテーマを設定し、企画立案から撮影・編集・仕上げまでの一連の制作工程を実践する。完成した作品は卒業制作展において発表し、プレゼンテーション能力および作品講評を通して表現力の向上を図る。								
到達目標	映像作品の企画立案から完成までを主体的に進行できる 制作スケジュールを立て、計画的に作業を進めることができる チーム制作において役割を果たし、協働して制作できる 作品の意図や表現について説明できる 一定の完成度を持つ映像作品を制作できる								
目標資格	無し								
前提知識	2年間で学んできた専門知識を理解できていること。								
使用教材	実習設備(撮影・編集・音響・照明・ノンリニア編集システム)一式								
履修上の注意	本科目はこれまでの学習成果を総合的に活用する科目である。制作スケジュールを厳守し、計画的に作業を進めること。また、グループ制作の場合は責任を持って役割を遂行すること。								
成績評価の方法	・作品評価80%・授業への取り組み姿勢20%などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス(制作の流れ・評価基準)
第2週	過去作品の分析
第3週	テーマ設定
第4週	企画書作成
第5週	構成・台本作成
第6週	絵コンテ作成
第7週	制作スケジュール作成
第8週	ロケハン
第9週	撮影①
第10週	撮影②
第11週	撮影③
第12週	編集①
第13週	編集②
第14週	テロップ・整音・仕上げ
第15週	講評・振り返り